

# BOYA<sup>®</sup>

## BY-NW8PRO

### 取扱説明書

Ver. 1.0

注意：本製品を使用すると高周波を発信する場合があります。設置場所および使用方法によっては、無線送信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ラジオやテレビの受信に干渉する場合は、環境に応じて使用するかどうかの判断、または下記の改善策をご検討ください。

- ・ 受信アンテナの方向や位置を変える
- ・ 装置とレシーバーの距離を離す
- ・ レシーバーが接続されているものとは別系統のコンセントに機器を接続する
- ・ 上記を試して、改善されない場合は販売店に相談してください

## 安全上の注意

BY-WM8 PROは、一眼レフカメラ等に対応するB帯ワイヤレスマイクセットです。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

## 特徴

インタビュー、Vlog、ポッドキャスト、ニュース取材などに最適

デュアル・チャンネル・ワイヤレス・レシーバー

優れた信号伝達と低歪みを実現

トランスミッターとレシーバー用のAまたはBの2チャンネルグループ対応

ステレオ/モノラル・モードの切り替え可能

マイクレベルとラインレベル入力に対応

ミュート機能搭載

見やすいLCDディスプレイ搭載

コンパクトで使いやすいシステムデザイン

自動LCD画面ロック機能搭載

ヘッドホンによるモニタリング可能

トランスミッター、レシーバーともに単三電池2本で駆動

## 仕様

発振器タイプ	PLL合成制御発振器
キャリア周波数範囲	806.125~809.500
チャンネル	トランスミッター A、B共にそれぞれ5チャンネルずつ
周波数特性	40 Hz ~ 18 kHz (+/-3dB)
動作温度	-10 ~ +50 °C
保管温度	-10 ~ +55 °C

## トランスミッター

RF出力	≤ 10 mW
アンテナ	1/4λ ワイヤアンテナ
スプリアス放射	250 nW以下
音声入力コネクタ	3.5 mmステレオミニ
基準音声入力レベル	-60 dBV (マイク入力。0 dB減衰)
基準偏差	5 kHz (-60 dBV 1 kHz入力)
入力周波数範囲	20 Hz~20 kHz
歪み	0.5 %以下
電源	単3電池2本使用
寸法 (H×W×L)	208×67×29 mm
重量	80 g

## レシーバー

アンテナ	1/4λ ワイヤアンテナ
音声出力コネクタ	3.5 mmステレオミニ
SN比	80 dB以上
歪み	0.5 %以下
ヘッドホン出力レベル	30 mW (16 Ω)
音声出力レベル	-60 dBV
電源	単3形乾電池2本
寸法 (H×W×L)	208×67×29 mm
重量	90 g

## ラベリアマイク

トランスデューサー	バックエレクトレットコンデンサー
指向性	無指向性
周波数特性	35 Hz ~ 18 kHz
SN比	74 dB SPL
感度	-30 dB +/- 3 dB / 0 dB=1 V/Pa, 1 kHz
コネクタ	3.5 mmステレオミニプラグ (ロック可能)
ケーブルの長さ	1.2 m

※仕様は予告なく変更される場合があります。

## システム構成

BY-WMB Pro-K1は、ボディパック型トランスミッター (TX8 Pro) ×1、ポータブルレシーバー (RX8 Pro) ×1、および以下のアクセサリで構成されています



レシーバー (RX8 Pro) ×1



トランスミッター (TX8 Pro) ×1



無指向性ラベリアマイク×1



3.5mmステレオミニケーブル



XLR出力ケーブル×1



マイクホルダー×1



ウインドスクリーン×1



ベルトクリップ×2



シューマウントアダプター×1

BY-WMB Pro-K2は、ボディパック型トランスミッター (TX8 Pro) ×2、ポータブルレシーバー (RX8 Pro) ×1、および以下のアクセサリで構成されています



レシーバー (RX8 Pro) ×1



トランスミッター (TX8 Pro) ×2



無指向性ラベリアマイク×2



3.5mmステレオミニケーブル×1



XLR出力ケーブル×1



マイクホルダー×2



ウインドスクリーン×2

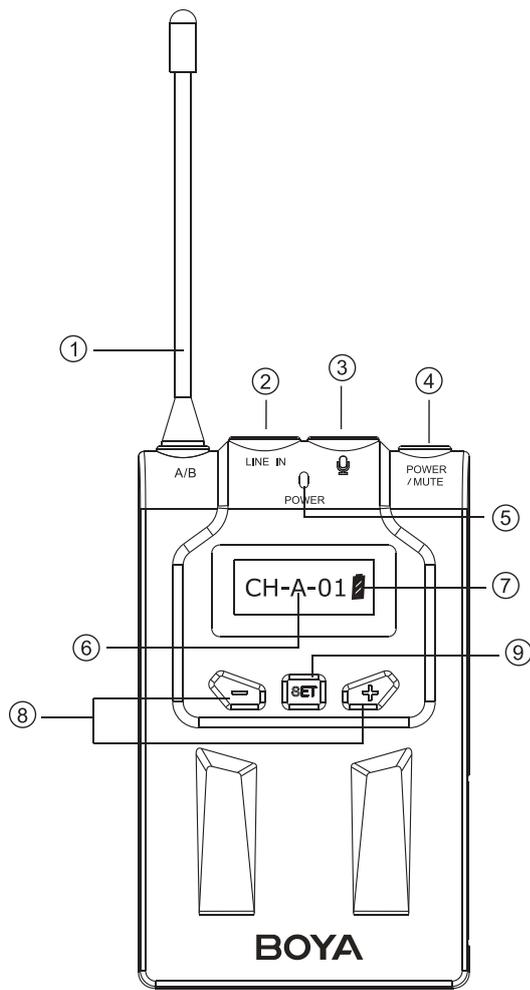


ベルトクリップ×3



シューマウントアダプター×1

# トランスミッター



## ① アンテナ

## ② ライン入力

## ③ マイク入力

付属のラベリアマイクをここに接続します。マイクの3.5mmプラグを完全に差し込み、カチッと音がすることを確認し、プラグをロックします。

取り外すときは、ロック機構を解除し、プラグを引き抜きます。

## ④ 電源/ミュート

長押しして電源をON/OFFします。

短く押しして音声をミュートします。

## ⑤ 電源LED

電源がONのとき、青色に点灯します。

電源電圧が低下すると、赤色に点灯します。

トランスミッターが接続されると、レシーバーのANT-AまたはANT-Bが青く点灯します。

## ⑥ CH(チャンネル)表示

送信チャンネルを表示します。

重要: 2つのトランスミッターはどちらでもトランスミッターAまたはトランスミッターBに使用することができます。

トランスミッターAとトランスミッターBの切り替え方法については、後述します。

## ⑦ 電池表示

電池の状態を表示します。

## 注意

1. 電池残量アイコンが空で点滅している場合、電池の残りは僅かですので、すぐに電池を交換する必要があります。

2. 電池が新品でない場合、電池の状態が正しく表示されない場合があります。ライブなどで長期間使用するときは、新しい電池に交換することをお勧めします。

## ⑧ +/-ボタン

送信チャンネルや入力信号の減衰量を設定します。

詳しくは「チャンネル、VOL、STEREO、MONOの設定方法」をご覧ください。

## ⑨ SETボタン

表示パラメーターの変更と入力を行います。

詳しくは「チャンネル、VOL、STEREO、MONOの設定方法」をご覧ください。

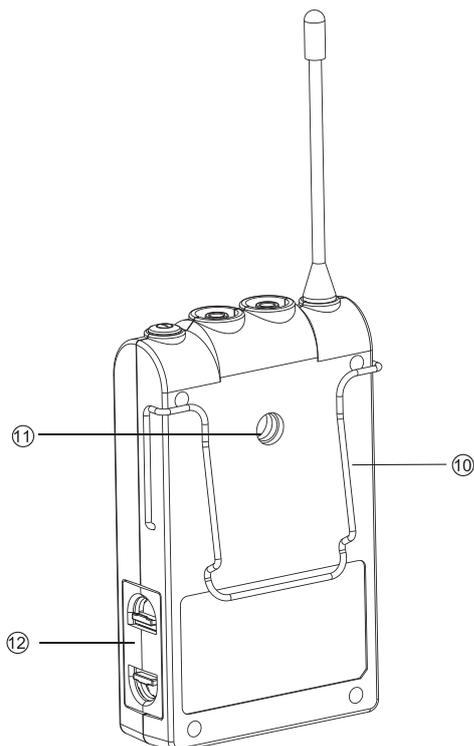
## ⑩ ベルトクリップ

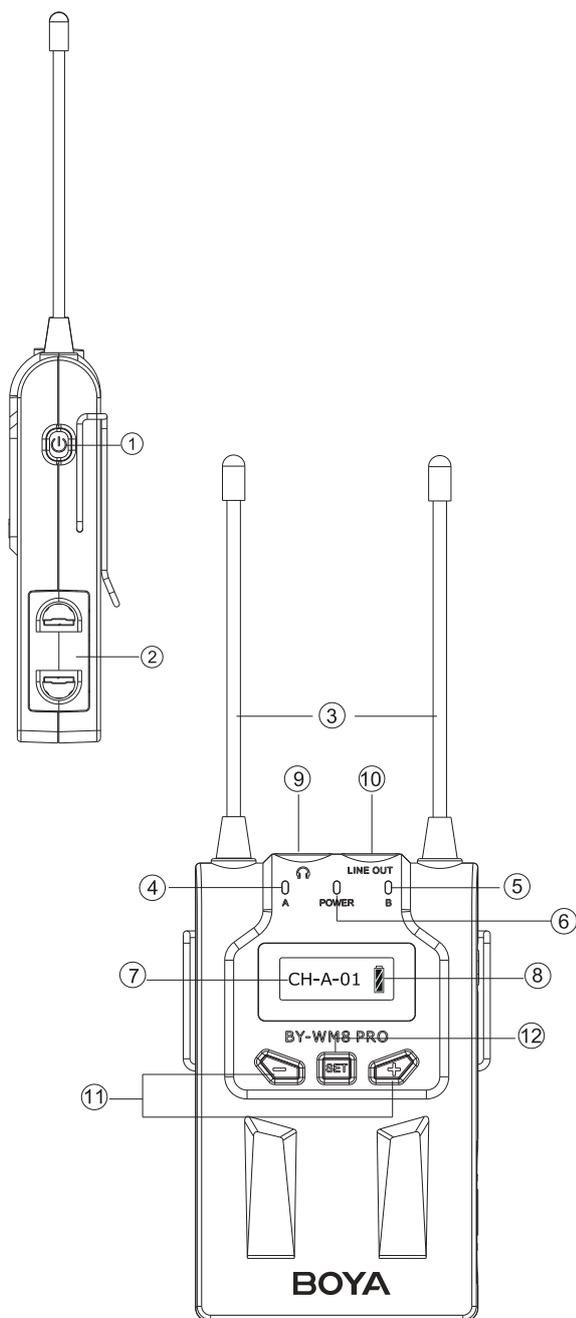
## ⑪ 1/4インチねじ穴

## ⑫ 電池収納部

単3形電池2本を収納できます。

詳しくは「電池の取り付け」をご覧ください。





**①電源ON/OFF**

**②電池収納部**

**③アンテナ**

**④LED (ANT-A)**

**⑤LED (ANT-B)**

**⑥電源LED**

1) 電源オン時、電源LEDは青く点灯します。

2) パワーが低下すると、赤く点灯します、

CH(チャンネル)表示

**⑦受信チャンネル表示**

**⑧電池表示**

電池の状態を表示します。

**⑨モニター/イヤホンコネクター**

(3.5mmステレオミニジャック)

レシーバーからの出力音声をモニターするヘッドホンを接続します。

**注意**

- モノラルミニジャックのヘッドホンを接続しないでください、

- ヘッドホン出力がショートし、音が歪むことがあります。

**⑩LINE OUT(音声出力)コネクター**

(φ3.5mmステレオミニジャック)

付属のステレオ3.5mmミニプラグ-BMP変換またはXLR-BMP

変換出力ケーブルの一端をここに接続し、もう一端をデジタル

一眼レフカメラ、ビデオカメラ、ミキサー、アンプなどのマイク入

力に接続します。

**⑪+/-ボタン**

送信チャンネル、入力信号の減衰レベル、「ステレオ」と「モノラル」

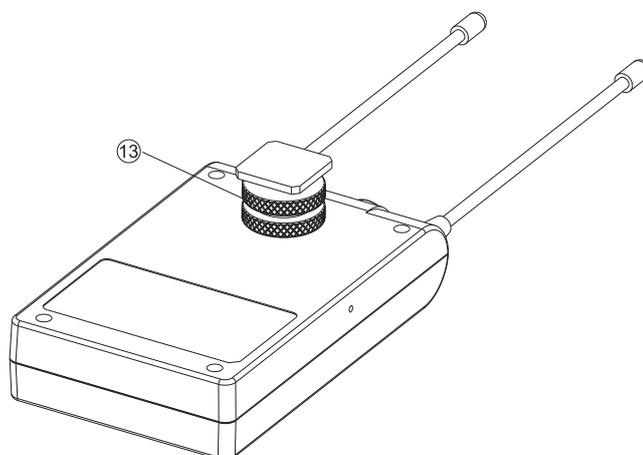
モードを設定します。

**⑫SETボタン**

**⑬シューマウントアダプター**

詳しくは「シューマウントアダプターを取り付ける」をご覧ください。

い。



## レシーバーの設定

### 音量の設定（チャンネルAの場合）

- ①「SET」 ボタンを数度押して、「VOL-A-01」と表示させます。
- ②「+」「-」を押して、音量を01～31で設定します。

### チャンネルの選択（チャンネルAの場合）

- ①「SET」 ボタンを数度押して、「CH-A-01」と表示させます。
- ②「+」「-」を押して、チャンネルを01～05を設定します。

### チャンネルのON/OFF設定（チャンネルAの場合）

- ①「SET」ボタンを数度押して、「CH-A-ON」または「CH-A-OFF」と表示させます。
  - ②「+」「-」を押して、ON/OFFを設定します。
- ※バッテリーの消費を抑えるため、使用しないチャンネル(A/B)はOFFにすることを推奨します。

### MONO/STEREOの設定

- ①「SET」 ボタンを数度押して、「MONO」または「STEREO」と表示させます。
- ②「+」「-」を押して、MONO/STEREOを設定します。
- ③STEREOに設定すると、チャンネルAは左、チャンネルBは右のチャンネルになります

※注意

工場出荷時に設定されているモードは「MONO」です。

設定変更はメモリーに保存され、次回トランスミッターの電源を入れたときに変更が有効になります。

設定画面は30秒後に自動的にロックされます。

+/- ボタンを長押しするとロックが解除されます。

## トランスミッターの設定

### チャンネルの選択（チャンネルAの場合）

- ①「SET」 ボタンを数度押して、「CH-A-01」と表示させます。
- ②「+」「-」を押して、チャンネルを01～05を設定します。

### A/Bチャンネルの変更（チャンネルA→Bの場合）

- ①「SET」 ボタンを数度押して、「CH-A-01」と表示させます。
- ②「SET」 ボタンを長押しすると、「CH-B-01」と表示され、チャンネルBに変更されます。

※注意

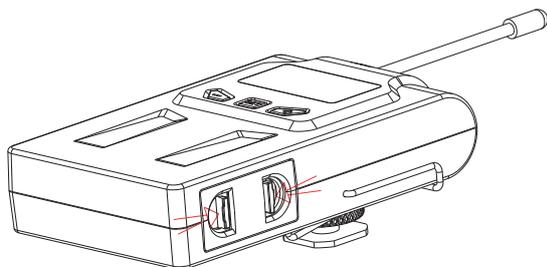
レシーバーの仕様上、二つのトランスミッターは、それぞれ別のチャンネル(A/B)である必要があります。

## セットアップ

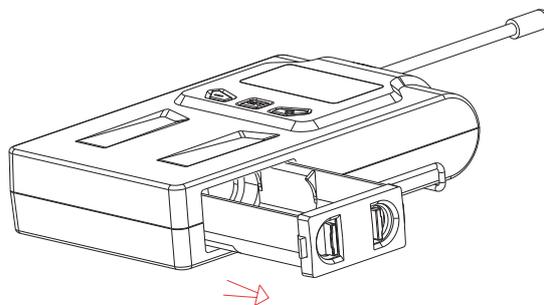
### 電池の取り付け

トランスミッターとレシーバーは、それぞれ2本の単三電池で駆動します。

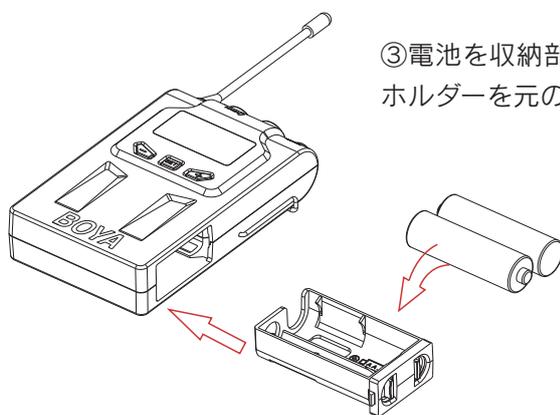
①本体の電源を切り、電池収納部のキャッチを内側(矢印の方向)にスライドさせます。



②電池ホルダーを引き出します。



③電池を収納部内の極性表示に合わせて挿入します。その後、電池ホルダーを元の位置に戻します。



#### 注意

本機の電源がオフになっていることを確認してください。信号伝送中に電池を取り出すと、大きなノイズが発生することがあります。

### 電池残量表示

電源をオンにすると、電池の状態がディスプレイに示されます。

新しい電池を使用する前に、必ず電池の使用期限を確認してください。

#### 注意

・電池が新品でない場合、電池の状態が正しく表示されないことがあります。  
・電池残量が不足すると、トランスミッターやレシーバーの能力が低下します。ライブなどを行う際は、新しい電池に交換してから使用してください。また、常に予備電池を準備するようにしてください。

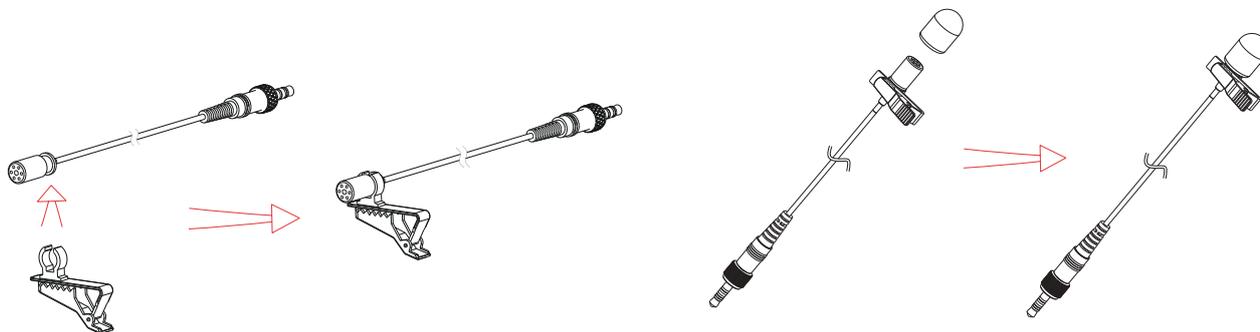
### 電池に関する注意事項

電池は、誤った取り扱いをすると液漏れや破裂を起こすことがあります。必ず以下の指示に従ってください

- ・正しい極性で電池を取り付けてください。
- ・電池は必ず2本一緒に交換してください。
- ・異なる種類の電池や新旧の電池を一緒に使用しないでください。
- ・長期間、使用しない場合、電池を取り外してください。液漏れが発生した場合、電池収納部を含む漏れた箇所すべてをクリーニングしてください。
- ・電池を廃棄する場合は、関連する地域のルールに従ってください。

## マイクアクセサリーの取り付け

マイクをホルダークリップに取り付けます。



カチッと音がするまで、ホルダークリップをマイクの底に押し付けます。

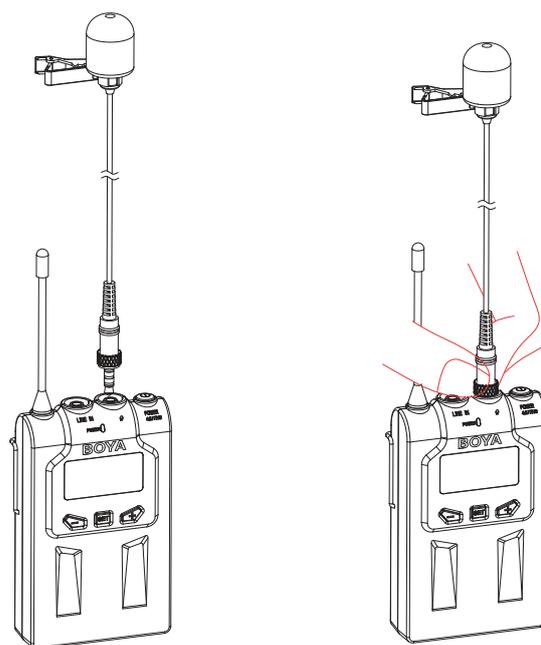
マイクをウインドスクリーンにある穴に差し込みます。

## ボディパック型トランスミッターへの付属品の取り付け

確実に接続するために、必ずコネクターカバーを回してロックしてください。

※注意

マイクの着脱は、必ずトランスミッターの電源を切ってから行ってください。



## ベルトクリップの取り付け

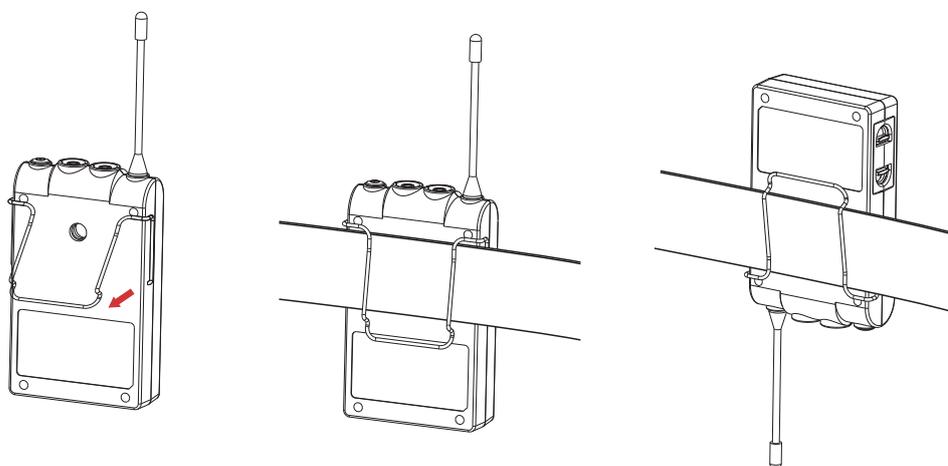
シューマウントアダプターを取り付ける前に、ベルトクリップを取り付けてください。

トランスミッターの向きを上下反対にする場合：

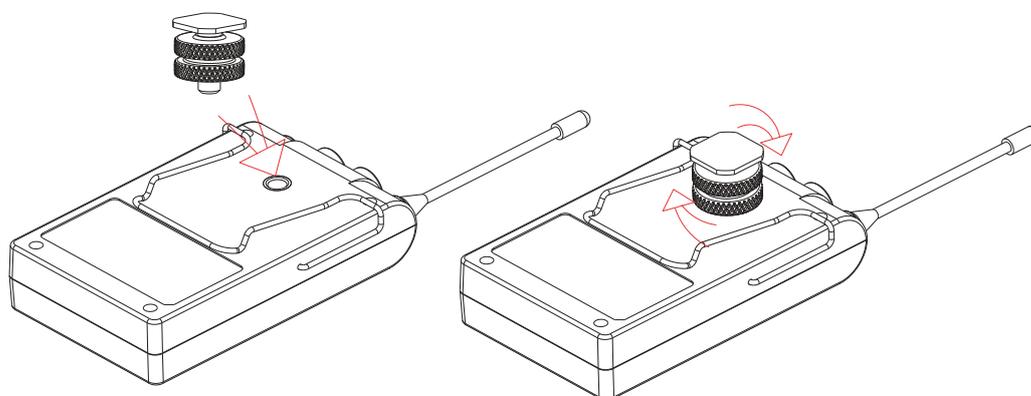
トランスミッターはベルトクリップを開いて簡単に取り外し、向きを変えて再装着できます。

トランスミッターの向きを変えるには、以下の手順に従ってください。

- ①ベルトクリップのヒンジを持ち上げます。
- ②トランスミッターを取り外します。
- ③トランスミッターの向きを変えてベルトに挿し込み、ベルトクリップを閉じます。



## シューマウントアダプターの取り付け



## トランスミッターとレシーバーの接続

①付属のラベリアマイクをトランスミッターのマイク入力に接続。または、ラインレベルのソースをトランスミッターのライン入力に接続します。

### ※注意

レシーバーをPA機器に接続する場合は、必ずPA機器をミュートしてください。チャンネルを変更するときも、ヘッドホンを外し、大きな干渉ノイズが発生しないように、接続されているPA機器をミュートしてください。

②トランスミッターとレシーバーの電源を入れ、トランスミッターとレシーバーを同じチャンネルに設定します。干渉やノイズが発生した場合は、別のチャンネルを試してください。

複数のBY-WMB Proワイヤレスシステムを使用する場合、各システムが異なるチャンネルに設定されていることを確認してください。(例えば、「CH-A-01」は2つ以上のシステムで共有して使用できません。)

チャンネル設定の結果は自動的にメモリーに保存されます。保存されたチャンネル番号は、次回トランスミッターとレシーバーの電源を入れたときに液晶画面に表示されます。

ヘッドホンをレシーバーに接続する場合、音量を下げてから接続し、必要な音量まで徐々にレベルを上げてください。

トランスミッターとレシーバーのチャンネルとボリュームは、初めて電源を入れたときは「CH-1」と「VOL-28」になっています。信号経路全体で最高のS/N比を得るために、歪みなく最高レベルを伝送できるように調整してください。

伝送品質とレベルが良好であることを確認したら、送信機と受信機を取り付けます。

### ※注意

- ・送信チャンネルを設定しているときは、トランスミッターは信号を送信できません。
- ・送信チャンネル設定中は電池を抜かないでください。
- ・トランスミッターとレシーバーで選択したチャンネルが同じであることを確認してください。

## 使用上の注意

### 使用場所について

BY-WM8 Proを電気機器（モーター、変圧器、調光器）の近くで使用すると、電磁誘導の影響を受けることがあります。機器からできるだけ離してお使いください。

照明機器は、全周波数範囲にわたって電氣的干渉を起こす可能性があります。干渉が最小限になるように配置してください。

S/N比の低下を避けるため、ノイズの多い場所で使用しないでください。

以下のような場所や振動のある場所で使用しないでください：

- モーター、変圧器、調光器などの電気機器の近く。
- 空調機器の近くや、空調機から直接風が当たる場所。
- スピーカーの近く。
- 機器との接触の危険性がある場所。

### クリーニング

表面とコネクタは、乾いた柔らかい布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、その他の化学薬品は、仕上げを傷める可能性があるため、絶対に使用しないでください。

## トラブル・シューティング

使用するにあたり、問題がある場合は、以下のチェック事項を確認ください。

問題が解決しない場合は、販売店にご相談ください。

症状	原因	対策
電源が入らない	電池の極性が正しくない	極性を確認して、正しく入れ直す
	電池が消耗している	新しい電池と交換する
	電池の端子が汚れている	+/-両電極を綿棒などで清掃する
電池の消耗が速い	電池が消耗している	新しい電池と交換する
	マンガン電池を使用している	アルカリ乾電池に交換する
	低温環境下で使用している	常温で使用する
音が出ない	トランスミッターのチャンネル設定がレシーバーと異なる	トランスミッターとレシーバーを同じチャンネルに設定する
音が歪む	トランスミッターのチャンネル設定がレシーバーと異なる	トランスミッターとレシーバーを同じチャンネルに設定する
	ヘッドホンにモノラルミニケーブルが使用されている	ステレオミニケーブルに交換する
ノイズがあり歪む。音抜け、ホワイトノイズ、バースト、ポップ、クリックノイズなどが起こる	RF(電波)干渉	<p>両方のユニットが同じチャンネルであることを確認する。</p> <p>-アンテナを互いに対して45°の角度で配置してみる。</p> <p>-RF干渉の少ない屋内に移動する</p> <p>アンテナを金属や水などの導電性体から少なくとも0.6m離す。頭上の電話線、蛍光灯、金属製のフェンスなどはすべて干渉の原因となる。</p> <p>近くにあるコンピューターや携帯電話の電源を切る。</p>

症状	原因	対策
ノイズがあり歪む。音抜け、ホワイトノイズ、バースト、ポップ、クリックノイズなどが起こる	RF信号が弱い	<p>トランスミッターとレシーバーのアンテナの間に遮るものがないことを確認する。</p> <p>身体、衣服、舞台上の設定などが障害となっていないか確認する。</p> <p>レシーバーとトランスミッターが100m以内であることを確認する。</p> <p>障害物がある場合は、もっと近づく必要がある。</p>
	カメラ、レコーダー、ミキサーの入力レベルが高すぎる	<p>カメラまたは録音機器の音声入力レベルを下げる。</p> <p>レシーバーの音声出力レベルを下げる</p> <p>ミキサーのゲインを下げる。</p> <p>機器側で調整ができず、まだレベルが高い場合、トランスミッターのマイクレベルを歪みのない範囲で可能な限り高く調整する。</p>
周囲音を拾ってしまう	無指向性マイクを使用すると、周囲音を拾いやすくなる	マイクを音源にできるだけ近づける